

## 中小河川における局地的豪雨対策WG 報告書骨子（案）

### 1．基本的認識

- ・ 本WGは中小河川における局地的豪雨に対応した河川管理を対象としたもの。
- ・ 最近発生している局所的豪雨は、今まであまり経験したことがないもの。
- ・ 局所的豪雨は、洪水の量的増大のみならず、水位上昇速度の高速化を伴う。
- ・ 対象河川は、市街地を貫流する中小河川。
- ・ 量的増大に対しては、流域対策を含むハード対策も必要だが、本WGの検討対象とはしない
- ・ 水位上昇速度の高速化に対して、河川管理上の課題を明確にし、今後の施策の方向性を整理することが目的。
- ・ 今回の局地的豪雨は、被災地域以外の住民にも実感を伴った不安感を与えており、国民に対して安心感を与える方向性を示すことが重要。

#### 1 - 1 局地的豪雨のレビュー

石川県金沢市：浅野川（7月28日）

- ・ 豪雨の状況説明
- ・ 被災状況

愛知県岡崎市：伊賀川、乙川（8月29日）

- ・ 豪雨の状況説明
- ・ 被害状況

#### 1 - 2 明らかになった課題

急激な水位上昇に対して、現行のシステムでは的確な避難活動（避難情報の発信含む）が困難であった。

- ・ 浅野川（石川県管理河川：市街地上流流域面積は約6.5km<sup>2</sup>）における避難判断水位は、過去の洪水（平成10年9月洪水）から、危険水位到達までに避難するための所要時間60分を考慮し、危険水位 - 50cmに設定されている。
- ・ 7月28日の洪水においては、避難判断水位到達から危険水位到達までの到達時間が約10分と極めて短時間であり、対応が困難であった。

急激な水位上昇に対して、現行のルール、体制では陸閘等の河川管理施設の的確な操作がとれなかった。

- ・浅野川では、急激な水位上昇を経験したことが無く、一部の陸閘等について閉鎖操作が遅れるなど、河川管理施設の操作についての的確な対応がとれなかった。

平常時の対応（適切な維持管理、防災情報・意識の共有等）が十分ではなかった。

- ・乙川（愛知県管理河川：市街地上流流域面積約 1 9 3 km<sup>2</sup>）において、日常の管理が不十分な事例が見られた。
- ・伊賀川（愛知県管理河川：市街地上流流域面積約 8 km<sup>2</sup>）においては、水位計が設置されておらず、被害状況の把握に時間を要し、対応が後手に回った。
- ・情報発信に時間を要するなど、河川管理者、市、住民がともに未経験の事象に直面し混乱した。

## 2 . 検討の視点

- ・局地的豪雨という極めて突発的な状況下を想定した検討  
事前の備えの充実、速やかな対応のための対策を中心に検討
- ・河川管理が十分とは言えない中小河川の現状を踏まえた検討  
中小河川における維持管理水準の確保  
住民の自助努力を伸ばすような対策を中心に検討
- ・国民に安心感を与えるため対策に要する期間を考慮した検討  
ロードマップの作成

## 3 . 対策について

### 3 - 1 対策の方向性

- ・初動体制の迅速化
- ・監視強化、予測の高度化
- ・河川管理者の対応力の向上
- ・適切な維持時間の推進
- ・防災情報、防災意識の共有（正しい避難行動の支援）
- ・地域防災力の向上（ローカルな利点の活用）

### 3 - 2 具体的な対策

### 3 - 3 ロードマップ

